

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000440		
法人名	宗教法人 真正寺		
事業所名	グループホーム ハーモニー (1Fソプラノ)		
所在地	小樽市長橋2丁目19番28号		
自己評価作成日	平成23年8月13日	評価結果市町村受理日	平成23年10月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000440&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年9月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度より、運営に関してより多くの方の意見を頂ける様に、運営推進会議にご家族全員に参加の呼びかけを行い、サービスの質等の向上に努めています。
また、昨年より近隣の3施設にて非常災害対策会議を充足し、「非常災害時等に関する協定」を結び、災害時には協力できる体制を整えました。地域(町内会)の方にも協定の説明し協力体制の呼びかけを行い、自施設での避難訓練も連携して行なえる様になっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、小樽駅からバスで15分程の停留所に近い便利な場所で、近くには公園や寺がある閑静な住宅街にあります。リビングから山々が眺望できたり、食卓テーブルやソファはゆったりと寛げるレイアウトとなっていたり、パネルヒーターの暖房器具、温度計や湿度計を設置するなど、利用者の安全と衛生の両面が配慮された快適なホームです。地域との交流は、町内会の公園清掃、廃品回収の手伝い、除雪などの地域貢献活動やボランティアの受け入れなど、積極的に行っています。利用者の暮らしぶりは、一人ひとりの要望や意向を聞きケアプランが作成され、各ユニットの管理者を中心とし、職員による家族的な親しみを持ったサービスが提供されて、利用者は笑顔で穏やかに暮らしています。また、利用者や家族の希望により、ホームでの看取りを職員が心をひとつにして取り組んでいます。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)					※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と		
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある			○	3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の実践に向けて、昨年度に引き続き「和顔愛護」を今年度の目標とし、いつでも入居者様・ご家族・お客さんに対して笑顔が届けられるように努力が続けられている。	運営理念の中から「和顔愛護」を平成23年度重点目標に定め、職員研修会で僧侶からの講義を受けたり、目標の意味や理由を伝える文書を配ったり、ユニット内で掲示するなど、職員に周知するとともに日常ケアに反映するようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内清掃については、昨年度おこなわれていなかったため、今年度より再度毎週日曜日に行えるように徹底した。廃品回収についても、職員の参加をできる限り行っており、地域の人たちの当施設の理解を深める働きかけになっていると思われる。	地域との交流を重視し、毎週近隣公園の清掃、2ヵ月に一回の廃品回収の手伝い、冬期間の除雪などを通し、町内会の住民の方々から、感謝の言葉かけを受けるなど、信頼関係が出来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者3名ともに、キャラバンメイトを受講し、認知症の理解を深めるお話が出来るように準備しているが、現在のところ講習会を開く要請はない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を行っている。また、今年度からは「家族代表」を廃止し、すべてのご家族に運営推進会議への参加を呼び掛けている。	会議は2ヵ月毎に地域包括支援センター職員、町内会役員、家族が参加して開催され、ホームの取り組みや利用者の健康状態や暮らしを報告したり、防災に関する協力体制などの意見交換や協議を行い、運営に活かされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜行っている。	市の介護保険課、生活保護課などには、運営上の疑問点や相談ごと、介護認定に関することなど、日常的に相談をしたり、情報交換をしています。また、包括支援センター職員との連携も密に行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯のために施錠をしているが、日中はされていない。また、虐待防止法及び身体拘束廃止の研修を内部研修として年2回ほど開催している。	内部研修会を年2回行い、全職員で学びを共有しています。さらにミーティングやカンファレンスなどを通して日常のケアを振り返る場を作り、常に職員個々の意識を高めるようにしています。施錠は日中はしていませんが、夜間は防犯のために20:30～翌朝5:00までしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法及び身体拘束廃止の研修を内部研修として年2回ほど開催している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、身元引受人がいないご家族には、制度の活用を含め広く支援の方法を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際に、重要事項・利用契約・個人情報保護に関しての説明を行い、同意を得ている。また、介護報酬改定や加算の追加の際にも、ご家族に改めて説明を行い、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員において、ご家族面会の際に入居者様の日々の様子をお伝えするほか、本年度より運営推進会議に出来る限りのご家族の参加を促し、ご意見を頂ける新しい機会としている。	家族来訪の際や来訪できない家族には、電話や「ホームたより」などで、意見・要望等を聞いたり、意見箱を設置し、いつでも意見・要望が出せるようにしています。また、全家族に運営推進会議を案内し、参加できない家族には、ハガキなどで意見・要望を出して頂き、ホームの運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で話し合いが出来る機会を設けているが、職員の意見は少なく全てが反映しているとは思われない。	毎月の職員会議は業務時間内に設定し、職員の参加を促し、意見交換や協議を行っています。業務関係では、レクリエーション・食事担当などの役割を通して、意見・要望を聞いています。また、管理者面談を年2回行い、個別の意見・要望を聞き、運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各管理者が職員の努力や実績、勤務状況を把握している。代表者は職員が働く現場を見ることがないにも関わらず、独自に給与水準、労働時間を調整している。向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めているとはいえないと思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員が働く現場を見ることがないため、各管理者により内部研修・外部研修を通じて研修の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度より、小樽市GH協議会による相互訪問研修に参加させて頂いている。毎月各階職員から、行きたい施設への希望を取り入れ、他の施設の良いところ・自施設の良いところを気づける場として非常に良い機会となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員それぞれが、入居による環境の変化がご本人にもたらす負担を理解されており、よく話を聞いたり、日常生活動作を見極め、安心を確保するように支援されている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者により、入居時の利用契約・ケアプラン説明時に聞き出すように努力している。また、入居後はご本人の不安を考え、頻繁に面会に来ていただくようにお話しし、職員においてはご家族面会時に日々の様子をお伝えしながら、入居者様・ご家族の不安を出来る限り取り除くように努力されている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時は、各関係機関から情報を頂き、また、医療機関との連携も含め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立度の高い方においては、関係を築けていると思われる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際には、ご家族自ら食事介助に携わってくれるなど、ともに支えていく関係が築かれていると思われる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る方には提供できるように支援されている。また、ご家族の協力により行われている部分もある。	家族が宿泊を希望した時は、利用者と同室で宿泊できるように配慮し、月命日の僧侶の訪問、お寺や墓参りなど、家族の協力を得ながら支援しています。また、友人の面会、馴染みの美容室への外出など、利用者が希望する家族や友人・知人との絆が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り孤立して過ごすことがないように、配慮しながら支援されている。また、特に入居時には、早期に他の入居者の方と馴染むことができるように、職員により配慮されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様退去時に、ご家族に対して何かあったら気軽に相談していただけるように、管理者よりお話ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、各入居者様の希望・意向を日常生活に反映できるように努力されている。また、意思表示が困難な入居者様に関しては、ご家族と相談のうえ、本人本位に支援できるように努力されている。	入居時、介護計画作成時に意向や要望を聞くだけではなく、日常の利用者の生活状態や言動・表情から、思いを引き出したり、意思表示の困難な利用者は、家族と相談して希望に添うよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族とのお話の中から、生活歴・馴染みの暮らし方を把握できるように努められている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人との会話・表情・行動・バイタル等から現状を把握するように努められている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	遅れがちであるが、各関係機関より情報を集め現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、医療機関や家族の意見、日々のミーティングから得た一人ひとりの生活情報を取り入れ作成し、カンファレンスで職員が協議して共有を図っています。モニタリングを3ヵ月毎に実施するとともに、変化が生じた時は随時見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果は介護記録に記入されているが、気づきや工夫等は記録に記載されていることは少ない。介護計画作成時に居室担当者に確認のうえ見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズに対し、各職員現状行っているサービスで満足していることが見受けられ、新しい支援のアイデアや柔軟な支援を行っているとは言いがたい。ケアプランの見直し時には必ず新しい支援の取り組みはないか考察している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人それぞれが地域と関わることはほとんどないものの、施設職員により地域住民の当施設への理解を深める努力を行っており、その結果安全・安心に生活できるように支援がなされていると思われる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族から希望があった場合には、昔から診察を受けている医療機関を受診できるように支援している。また、特になければ、当施設協力医療機関の往診を定期的に受けていただいている。	利用者、家族の希望で、かかりつけ医を決め、必要時は受診に付添うなど、治療が継続できるよう支援しています。また、協力医療機関の2週間に1回の往診とホーム看護師との連携で健康管理を行い、適切な医療が受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員においては、当施設週2回勤務の看護師と相談しながら支援していると考えているが、看護師においては、週2回と限られた勤務時間により、情報の把握が満足ではないと考えているようである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早期に退院できるように、ご家族との情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設での看取りに関しての指針を作成されており、必要時には早期に、ご家族で方針を決めていただくようにお話させていただいている。また、看取りに関しても、ご家族と良い関係を保ちながら支援している。	入居時に重度化や終末期の指針を家族へ説明しています。看護職員を配置しており、利用者の状態に応じて協力医療機関と連携しながら、家族と十分に話し合い対応しています。昨年は、利用者、家族の希望による看取りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小樽市主催の普通救命講習にて、AED使用方法や心肺蘇生方法を全職員研修済みである。また、研修受講からしばらく時間が空いた職員に関しては随時再講習を行っていく予定である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣グループホーム3施設での連携にかかわる協力体制を整備した。また、町内にもその旨説明し、具体的に災害時に見守りを行っていただけるように提示させていただいた。自施設での夜間を想定した避難訓練の実施については、消防を交え、9月に予定している。	近隣のグループホーム3カ所と非常・緊急災害時の協力体制を整備しています。町内会にも災害時に見守りなどの協力を依頼しています。年2回実施している避難訓練には、消防署の協力を頂いています。9月には夜間を想定した避難訓練を実施する予定です。	避難訓練の取り組みは、地域住民の方々の協力を得たり、同業のグループホームと連携するなど、体制整備は出来ていますが、非常時の飲料水・食料などの備蓄がされておられません。今後は備蓄にも取り組み、火災のみではなく、地震など幅広い災害対策を整備されることを期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員それぞれ、言葉掛けに対して意識して行っているようであるが、その一方で、忙しい時などきつい口調になっているかもしれないと、各自が気付いているようである。	「利用者の個性を尊重する」ことを運営理念にも謳い、介護の際にも羞恥心やプライバシーに配慮した声かけや誘導で、さりげない対応を行い、利用者の人格を尊重し、誇りを損ねることのない介助を実践しています。	利用者の個性を尊重したケアを提供するように、常に意識してケアをしていますが、職員一人ひとりの自己評価では、「忙しい時などは、きつい口調になっているかもしれない」との気づきが記入されており、今後も継続した取り組みを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立度の高い入居者様の自己決定は尊重しているようであるが、自分から意思表示が出来ない自立度の低い方に対しての、希望表出・自己決定を行える支援の提供は少ないように思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活や重度化といった弊害はあるものの、現状出来る限りの、希望に沿った生活の提供は毎日ではないが行われていると思われる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一時期整容が不十分なことが見られたが、居室担当より他の職員へ気をつけるように指示があり、適切に支援していると思われる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の出来る力を見極め、提供されている。	揚げ物などの調理、盛り付け、後片付けなど、利用者の出来る力を発揮して頂き、職員も食卓を囲み、会話をしながら食事を楽しんでいます。調理担当者が、利用者の声を聞きながら献立を作り、肉を食べれない方は、魚にするなどの配慮をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックを行いながら、栄養不足・脱水等に注意して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の出来る力に応じて、口腔ケアを毎食後支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化に伴い、オムツの使用頻度は増えているものの、出来る限り自立して排泄できるように支援はされている。	トイレでの排泄をケアの基本にしています。重度化に伴い、尿意のない方のオムツ使用が増えていますが、利用者の排泄パターンを把握しトイレに誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物・服薬により便秘を予防するように努めている。運動の働きかけに関して、現状足りない部分があると思われる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は2～4日おき、時間は13:30～15:00位で決められている。その範囲において、ご本人が嫌な時は次の日にずらしたり、時間を後にしたり少しでも希望を取り入れるように支援している。	週2回の入浴を基本にしていますが、利用者の体調・気分などに合わせて支援しています。利用者の入浴したい気持ちを尊重し、適宜に時間・曜日などを変えて柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方が多く、ご本人の体力・皮膚疾患を考慮し、休息の時間を設けている。夜間においても、ご本人の希望を取り入れ、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、個別に薬剤情報シートを個人の記録に添付しているほか、誤薬を防ぐために服薬支援の際に数を確認するようにしている。また、服薬による食事の制限に関しても、全職員確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	当施設の年間行事を季節ごとに行っているほか、毎週日曜日には気分転換の機会を設けることが出来るように支援している。また、ご家族による外食等の支援も協力していただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人のその日の希望には添えないことが多いが、（病院受診や職員配置により）定期的に買い物・ドライブ等に出かけることが出来るように支援されている。また、ご家族の外出・外食の協力もしていただきながら支援している。	天気の良い日は、近所へ散歩したり、テラスで寛いだり、近所の市場やデパートへの買い物、ドライブ、魚釣り、松坂牛を食べに行くなど、利用者の希望を聞き、外出しています。また、家族の協力を得て、外出や外食に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のうちほとんどが、金銭管理を施設に任せている状態であり、お金を使ったり所持したりすることは極めて少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の支援を行っている。手紙の支援については、送られてくることはあるものの、書く能力がないために返信していない。代筆や写真送付等、柔軟に対応していきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内において、湿度・温度については、感染症対策ということもあり、チェック表にて適切に調整するように努めている。飾り付けや花等は、一度飾るとそのまま数ヶ月同じ状態であることが多く、季節感を取り入れているとは言い難い。	山々が眺望できる窓やゆったりと座れる食卓テーブル、ソファが置かれ、季節の花がリビング、玄関、洗面所などにさりげなく飾られていたり、職員と一緒に制作した作品やさまざまな行事の写真などが貼られており、落ち着いた寛げる空間となっています。また、湿度・温度計を設置し、チェック表にて適切に調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室・居間食卓テーブル・TV前ソファと、限られた空間ではあるが、各入居者様それぞれ落ち着く場所に過ごされていることが多い。また、孤立しないように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族に今まで使い慣れた家具を持ってきたりいただけるようにお話しし、ご本人のお部屋として生活できるように配慮している。	家庭で馴染んで使っていたベット・タンス・椅子などの家具や仏壇、神棚を持ち込んだり、使い慣れた目覚まし時計などの小物や家族の写真などを飾り、利用者が安心して居心地良く暮らせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物ハード面において、手すりが不足していたり、見守りがしづらい環境ではあるものの、それを補うように誘導の配慮やセンサー使用等により工夫されている。		